

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科  
2012 年度 JASSO ショートビジット派遣報告書

報告者氏名 黒田彩加

24 年度 (入学・編入)

1. 研究課題: 現代エジプトにおけるイスラーム国家構想: 宗教共存に着目して

2. 渡航先:

現地滞在期間: 平成 24 年 7 月 16 日 ~ 24 年 10 月 1 日 ( 81 日間)

3. 今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください

今回の派遣期間中、現地の語学学校にて語学研修を行った。現地の書店と図書館を通じて文献収集を行った結果、300 冊程度のアラビア語書籍を入手することができた。

また、カイロ市内に居住するムスリムとコプト教徒を対象に、エジプトにおける両者の関係について聞き取り調査を行った。その結果、コプト教徒に対する差別があることは認められたものの、日常的な宗派問題の存在は確認できなかった。両者の通婚は通常存在せず、彼らの属する宗派内での結婚を通じて宗教・社会共同体の再生産が行われている。その一方で、エジプトは宗教的紐帯だけでなく地縁や職縁に根ざした強固な共同体主義が存在する土地でもある。そのため、ムスリムとコプト教徒の交流は日常的に観察され、「ムスリムとコプトは良い友人である」との語りが双方から聞かれた。

滞在中、カイロ大学政治経済学部内にある「人権と民主主義プログラム」室を訪れる機会があった。同プログラムは経済的なエンパワーメントに集中しており、宗派間の法的平等が保障されていることから、宗派問題に対してはアプローチを行っていないとのことであった。

4. 自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や長期的な展望について述べてください

今回の渡航は重複して支援を受けたプログラムの制約上、7 月から 9 月という期間の滞在にならざるをえなかった。これは現地の大学は夏休みにあたる時期であり、教員や学生との交流の機会が著しく制限された。

次に渡航する機会では、現地の学生や研究者と積極的な情報交換を行いたいと思う。また、エジプト方言を含めてアラビア語能力に磨きをかけ、さらに綿密なフィールドワーク調査ができるようにしたい。

5. 本プログラムに参加した感想や、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいか、希望をお聞かせください

現地の学生や研究者と積極的に学術交流や情報交換を行えるようなショート・ビジットプログラムがあればありがたいと思う。今回の派遣は現地期間とのパイプがほとんどなく、困難を感じる面もあった。

\*1 ページを超えないようにしてください。

\* **プリントアウトして、署名を記入の上、提出してください。**

署名